

令和6年度の減災に係る取組結果の報告資料

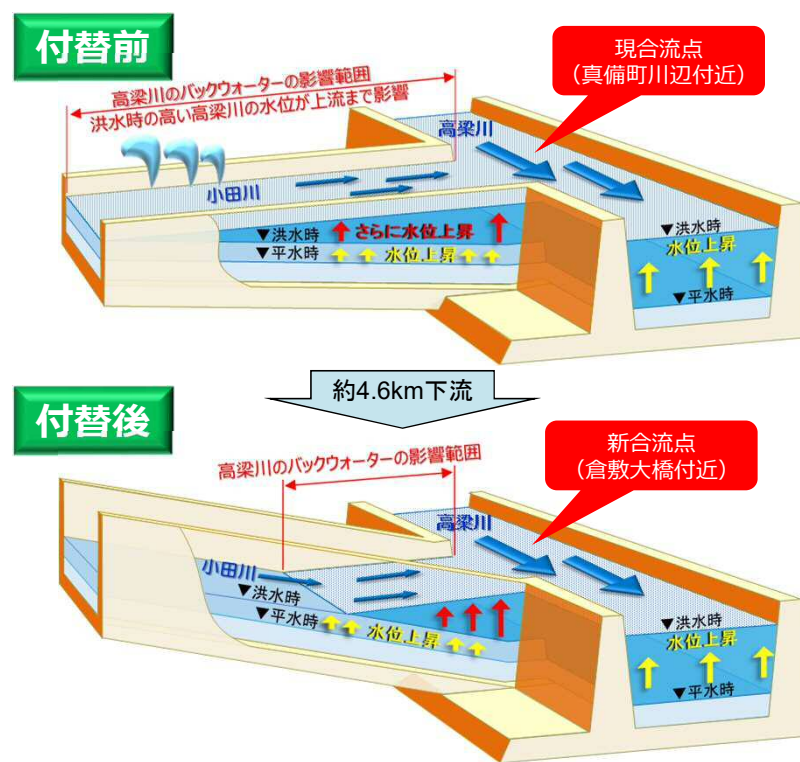
国土交通省の取組状況

令和6年3月に小田川合流点付替え事業が完成

- 柳井原貯水池を活用し、高梁川との合流位置を約4.6km下流へ付け替えることにより、高梁川のバックウォーターによる小田川への影響を小さくするとともに、倉敷市街地における治水安全度の向上を図る。
- 平成26年から事業着手し、約15年間で整備することとしていたが、平成30年7月豪雨により小田川等の堤防が決壊し、倉敷市真備町において甚大な被害が発生したことから、河川激甚災害対策特別緊急事業として、完成予定を5年前倒し、**令和6年3月に完成**。



■小田川合流点付替えによる整備効果イメージ



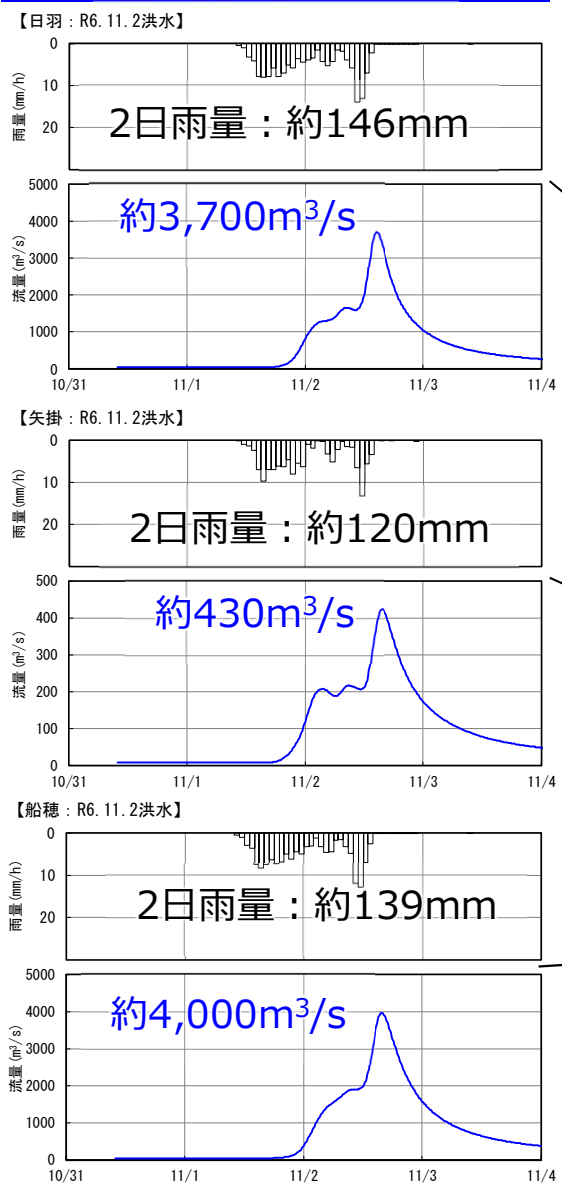
➤ 令和6年3月23日に小田川合流点付替え事業等竣工記念式典を挙行



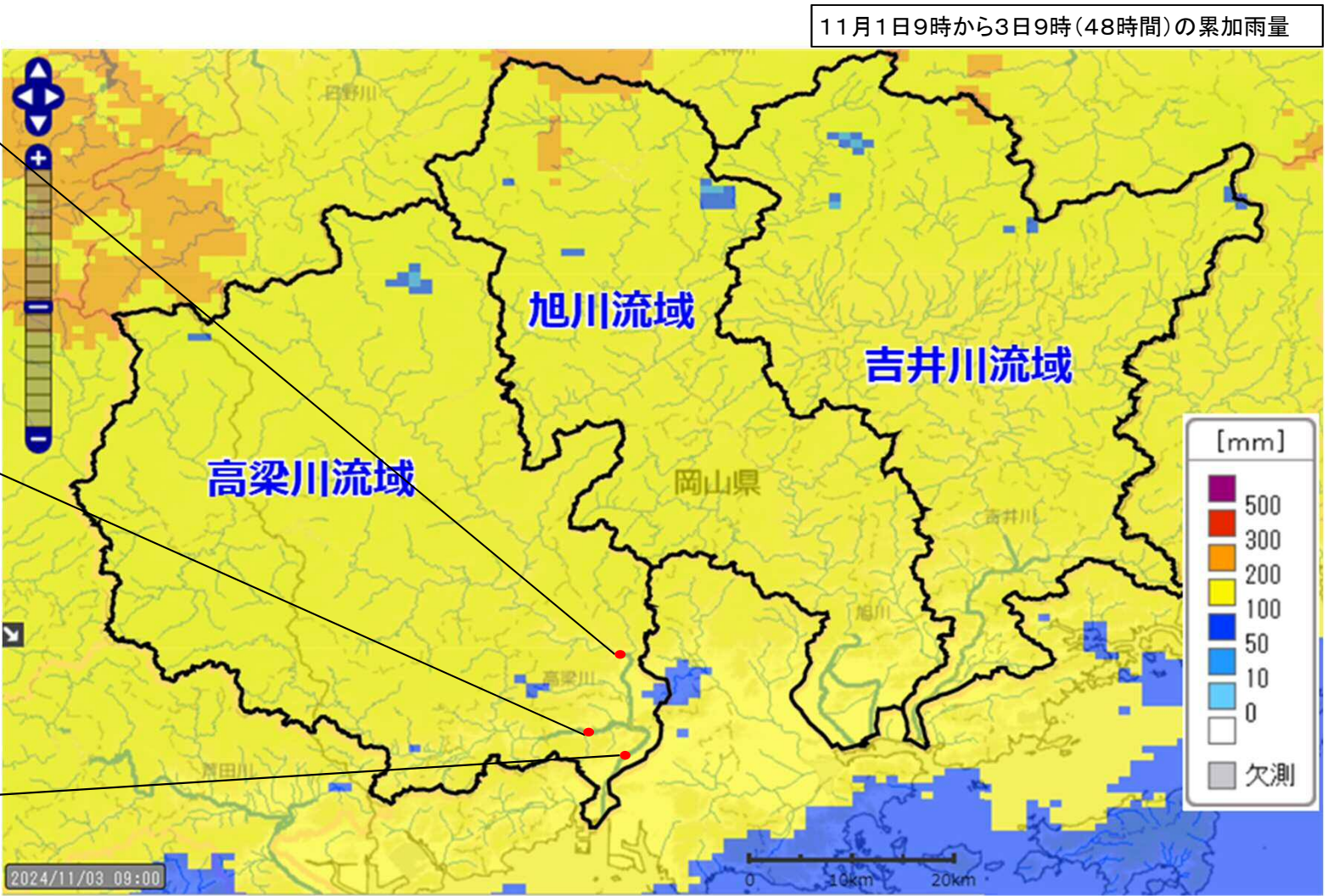
令和6年11月出水の雨量概況

○11月1日から11月3日にかけて**台風第21号**が接近し、台風第21号から変わった低気圧と前線の影響により岡山県では広い範囲で大雨となり、期間中(1日9時～ 3日9時)に、多いところで**総降水量が約150mm**に達した。

雨量・河川水位グラフ



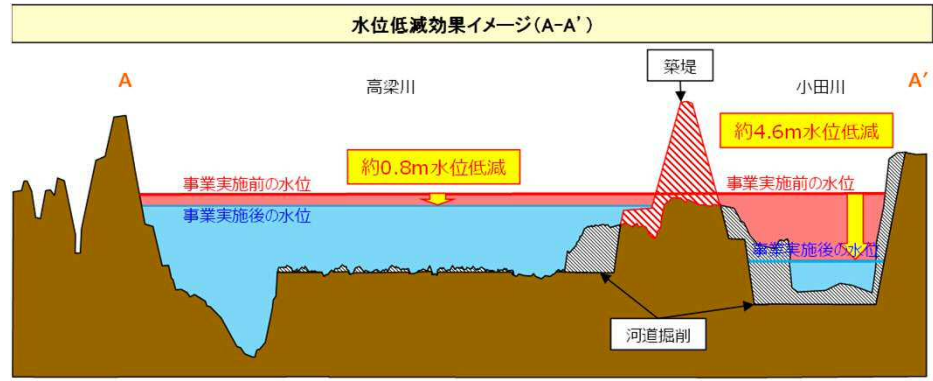
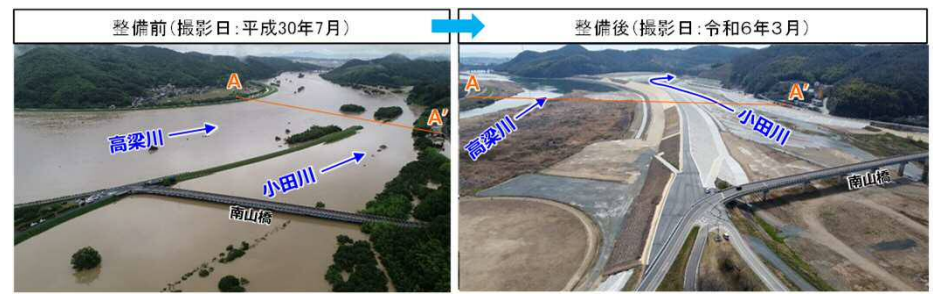
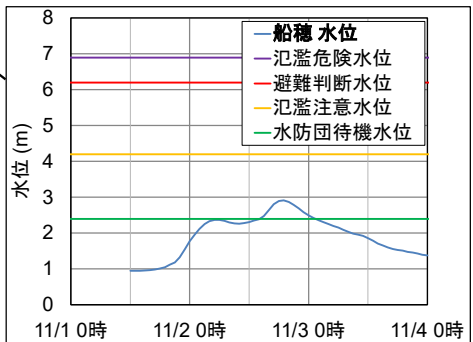
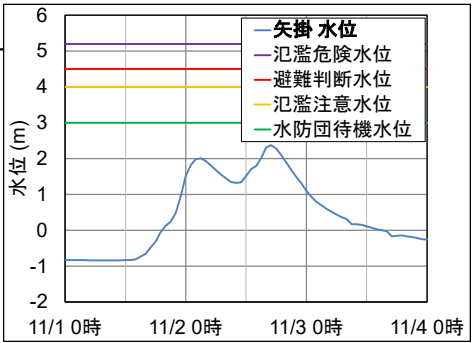
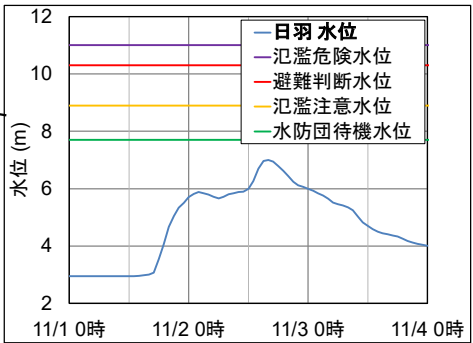
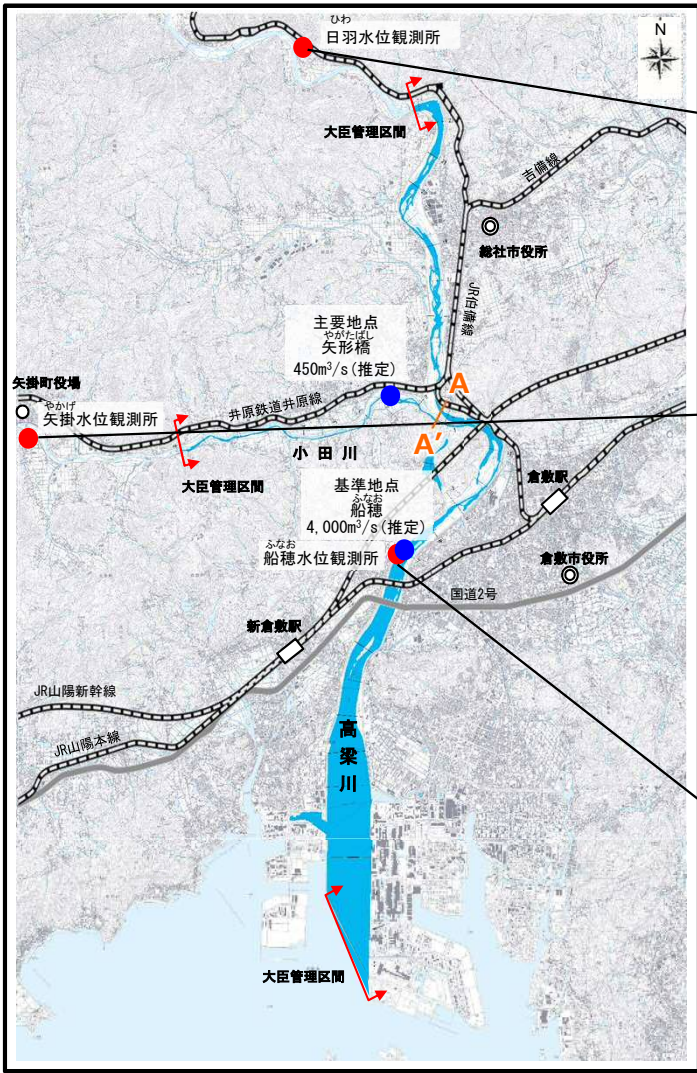
累加雨量レーダ分布図



小田川合流点付替え事業による水位低減効果事例(令和6年11月出水)

- 令和6年台風第21号から変わった低気圧と前線の影響により、岡山県では多いところで総降水量が150mmに達する大雨となり、高梁川の船穂水位観測所では平水位から約2.0m水位が上昇。
- 小田川合流点付替え事業が完成したことにより、小田川は高梁川からの背水の影響が減少し、水位が大幅に低減。
- 小田川旧合流点付近では、事業実施前に比べ、高梁川側で約0.8m、小田川側で約4.6mの水位低減効果があったと推定。

令和6年11月出水の河川水位グラフ



※本資料の数値等は速報値であり、今後変更となる場合あり

令和6年11月出水(11/2 17:30)の河川水位状況



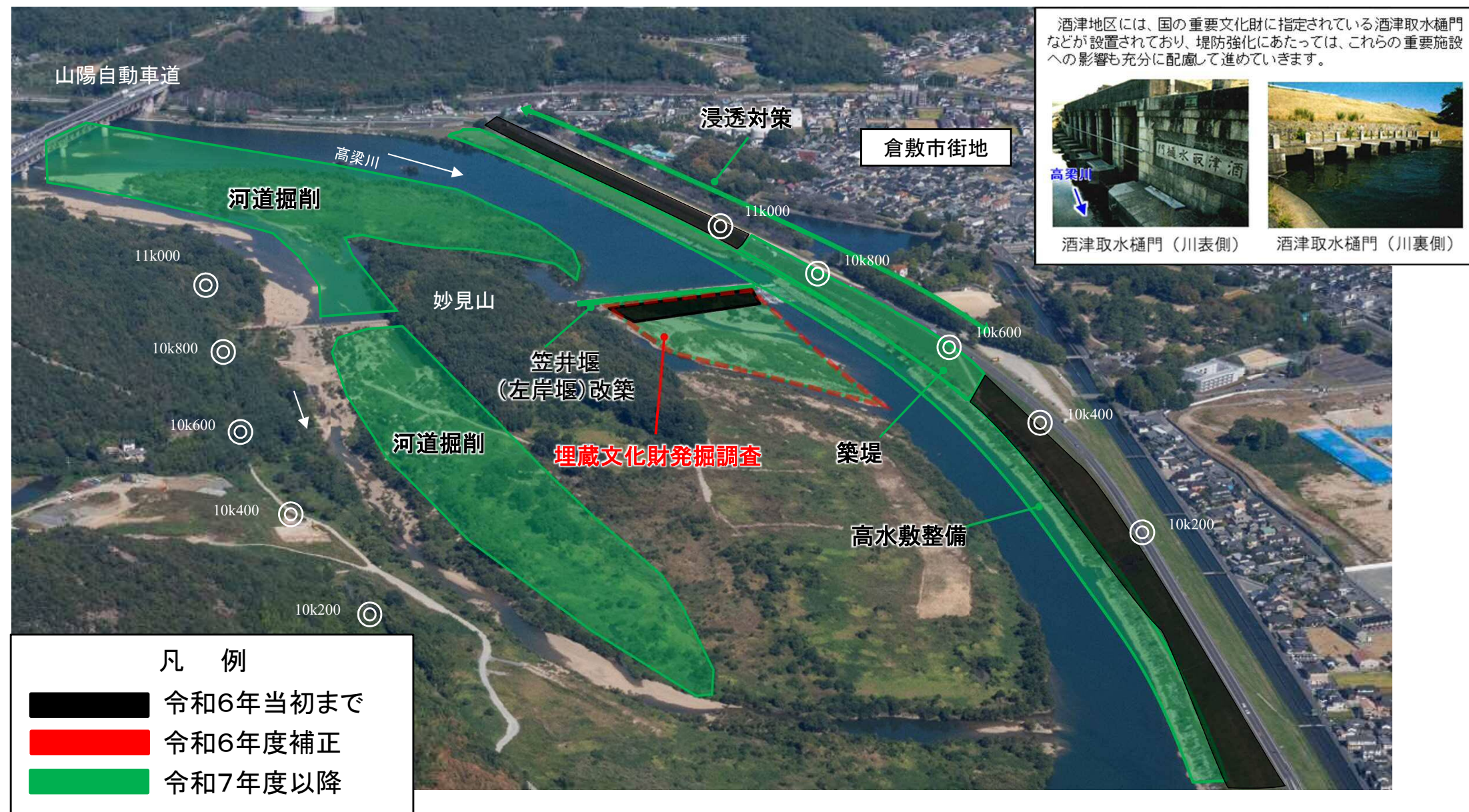
清音古地より締切堤防(旧合流点)を臨む



小田川南山橋付近より下流を臨む

酒津地区堤防強化・笠井堰改築に伴う整備状況について

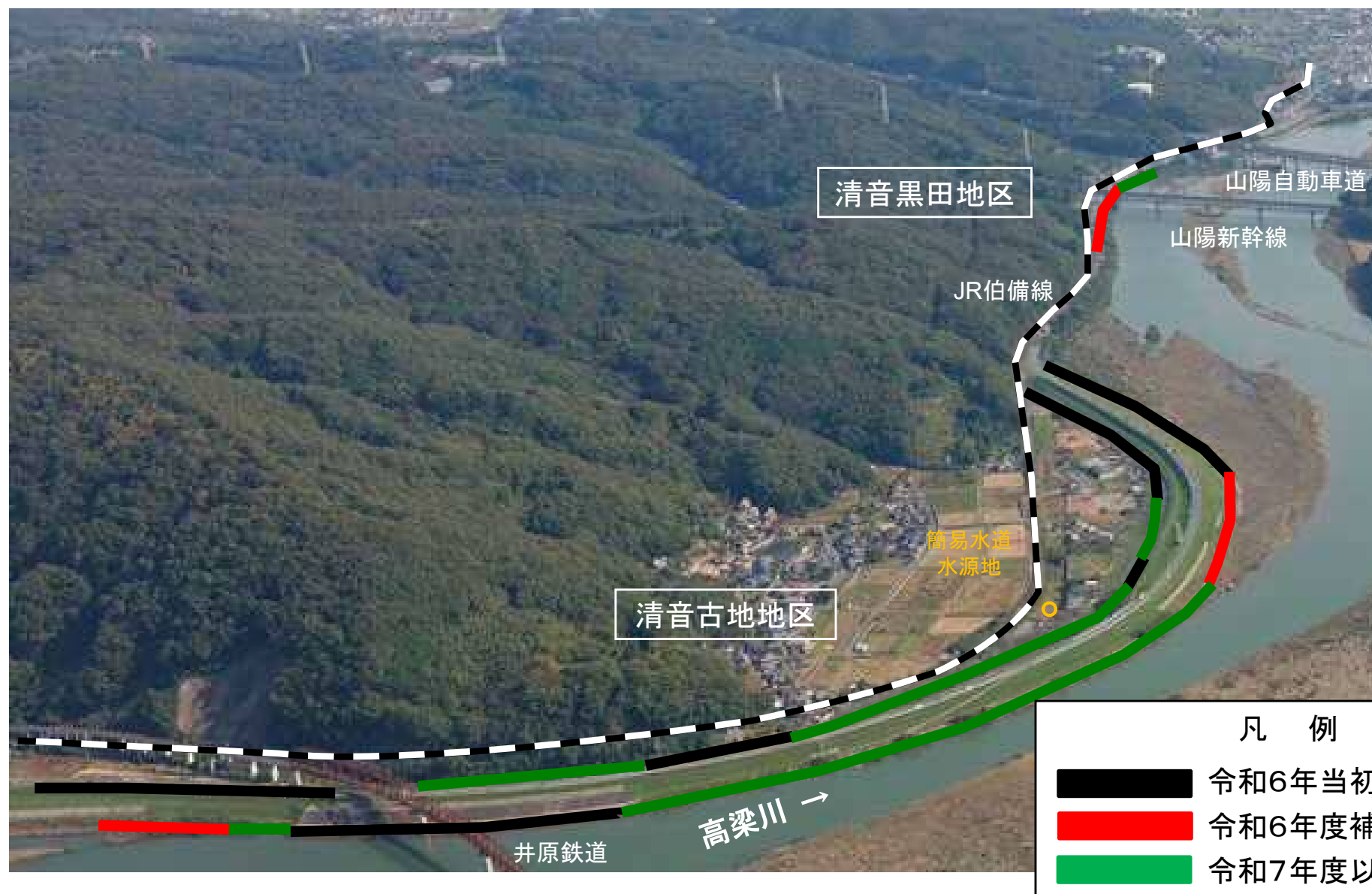
- 小田川合流点付替え事業に引き続き、被害ポテンシャルが高い**酒津地区の堤防強化と笠井堰の改築を実施し、**治水安全度向上を図る。
- 令和7年度は**堤防強化と埋蔵文化財調査を実施**します。



清音古地地区・清音黒田地区の整備状況について

○清音古地地区は浸透に対する安全性が不足し、清音黒田地区は堤防の高さや幅が不足している箇所があるため、早期に整備を完了させる必要がある。

○令和7年度は、**清音古地地区の浸透対策を推進し、新たに清音黒田地区の浸水対策にも着手する。**



岡山河川事務所

○令和7年度完成を目標に浸透対策を推進する。



■ 流下能力対策

対策箇所

- ・堤防高が低い等、当面の目標に対して流下能力が不足している箇所
（上下流バランスを確保しながら実施）

計画：2.65km

計画：2.61km

計画：11.78km

水系	年度	実施状況
吉井川水系	R3年度完了	2.65km（累計100%）

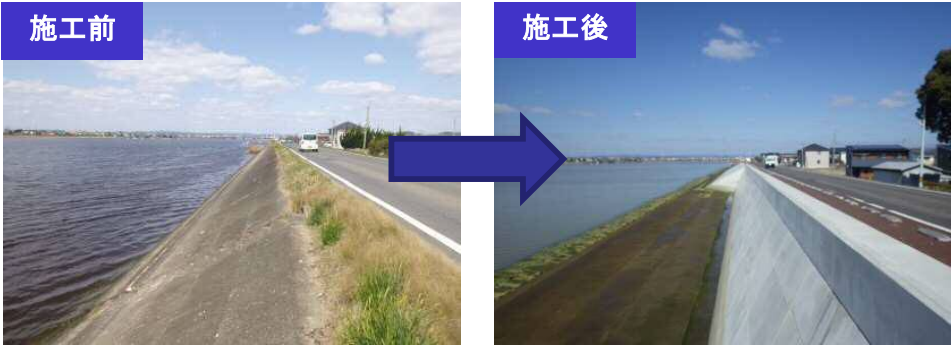
水系	年度	実施状況
旭川水系	R6年度まで	0.5km（累計19%）

水系	年度	実施状況
高梁川水系	R6年度まで	11.45km（累計97%）

見直しにより対策不要となった区間を含む

見直しにより対策不要となった区間を含む

見直しにより対策不要となった区間を含む



旭川水系



高梁川水系

■パイピング対策

対策箇所

- ・過去の漏水実績箇所等、浸透により堤防が崩壊する恐れのある箇所
- ・旧河道跡等、パイピングにより堤防が崩壊する恐れのある箇所

計画:2.98km

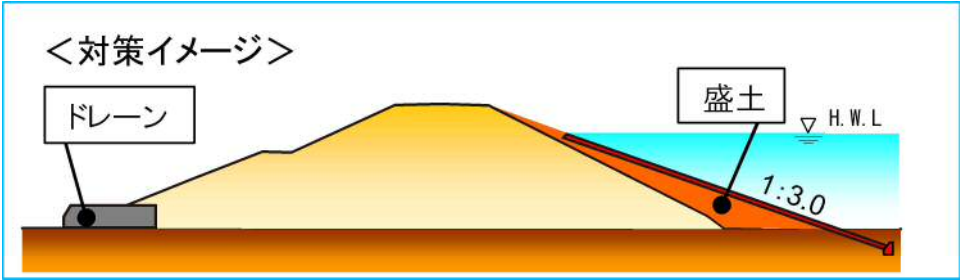
水系	年度	実施状況
旭川水系	R4年度完了	2.98km（累計100%）

見直しにより対策不要となった区間を含む

■浸透対策

対策箇所

- ・過去の漏水実績箇所等、浸透により堤防が崩壊する恐れのある箇所



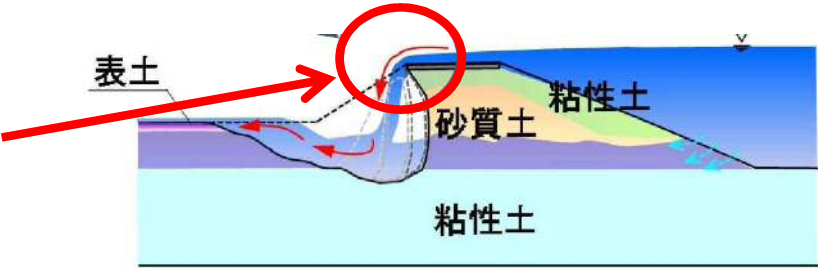
計画:2.63km

水系	年度	実施状況
高梁川水系	R6年度まで	2.48km（累計94%）

見直しにより対策不要となった区間を含む

■天端の保護

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



計画:2.60km

水系	年度	実施状況
吉井川水系	H28年度完了	2.60km（累計100%）

見直しにより対策不要となった区間を含む

計画:1.23km

水系	年度	実施状況
旭川水系	H28年度完了	1.23km（累計100%）

見直しにより対策不要となった区間を含む

計画:0.69km

水系	年度	実施状況
高梁川水系	H28年度完了	0.69km（累計100%）

見直しにより対策不要となった区間を含む



吉井川水系



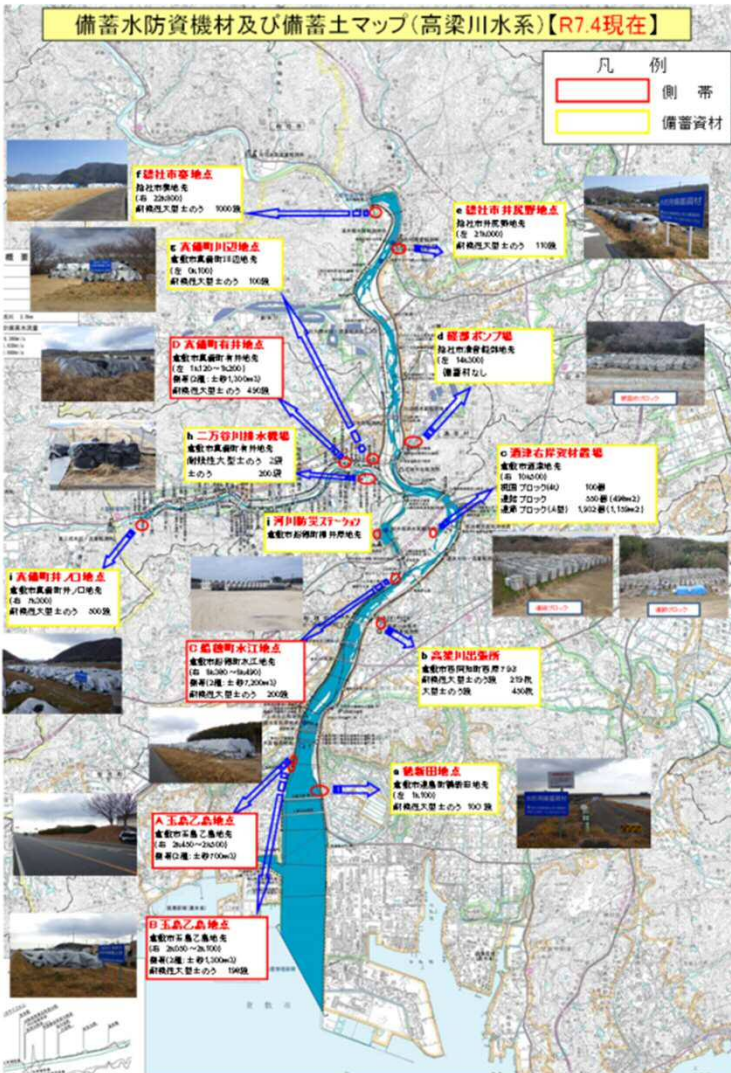
高梁川水系

■まとめ

	吉井川水系	旭川水系	高梁川水系
流下能力対策	2.65km／ 2.65km(100%)	0.50km／ 2.61km(19%)	11.45km／ 11.78km(97%)
パイピング対策	—	2.98km／ 2.98km(100%)	—
浸透対策	—	—	2.48km／ 2.63km(94%)
堤防天端の保護	2.60km／ 2.60km(100%)	1.23km／ 1.23km(100%)	0.69km／ 0.69km(100%)

令和6年度末時点／全体計画(進捗率%)

保有する水防資機材の状況を平素より管理し、必要に応じて補充するなど、緊急時における速やかな対応を図る。



保有する水防資機材の状況を平素より管理し、必要に応じて補充するなど、緊急時における速やかな対応を図る。

備蓄水防資機材及び備蓄土一覧表（R7.4現在）

備蓄水防資機材及び備蓄土一覽表(高梁川水系)

番号	保管場所	二 階 倉 庫	耐火性大型たのう 組	保管定数										保管場所 住所
				大型たのう の 数	たのう の 容 積	たのう の 容 積	たのう の 容 積	たのう の 容 積	たのう の 容 積	たのう の 容 積	たのう の 容 積	たのう の 容 積	たのう の 容 積	
1	倉敷市見島支所				800	8,000	30	73	94	53	15		倉敷市見島小川町 2681-3	
2	見島消防署				2,340	1,800	5	110	99	104	12		倉敷市見島小川町 1-17	
3	見島消防署南流分署				200	3,300	4	4	15	28	8		倉敷市見島南流2767-14	
4	倉敷市水島支所				2,060	2,000	0	0		76	11		倉敷市水島北町 1-1	
5	水島消防署				1,560	4,800	8	12	0	31	81	23	倉敷市水島北町 4-1	
6	倉敷市玉島支所				1,060	4,800	3	170	0	20	60	20	倉敷市玉島阿賀町 1-1-1	
7	玉島消防署				3,300	3,440	3	9	0	70	60	20	倉敷市玉島八島56-1	
8	玉島水防倉庫				2780	200		210	320	3	7		倉敷市玉島乙島550-4 地先	
9	倉敷市東石倉庫				4800			50	650	35	10		倉敷市東石2-20 地先	
10	倉敷市玉島町支所				500	700	2	22	10	3	10		倉敷市玉島町2087	
11	倉敷市船越支所				345	1921		10		26	7		倉敷市船越町船越2054	
12	倉敷消防署		4	8	1000	1040	12	9	50	21	108	20	倉敷市白鳥町162-6	
13	社社市清音出張所				3,800					1	3		社社市清音町159番地	
14	倉敷市庄原支所				500	6300	2	5	30	5	7		倉敷市上東756	
15	社社水防倉庫		30		9930			22	200	15	75	4	社社市中央1-13-111	
16	社社市社社				1800	40		90	950	60	14	8	社社市真備1600-1	
17	赤木倉庫				650			66	230	16	4		社社市栗550	
18	阿賀水防倉庫				800					5	1		社社市西阿賀1234-5	
19	船越水防倉庫				1300			1300	7	4			社社市真備120-1	
20	野宮水防倉庫				300	20				4	1		倉敷市野宮町25番地(44番) 地先	
21	田村水防倉庫				0	4900	1	6	6	70	6		倉敷市真備町1163-2	
22	小田町支所				2600			600	11	2			小田町那須町矢部9-1	
23	ふしき隣接福祉プラザ				2750								倉敷市野宮180	
24	有補助元備倉庫				12000					220			倉敷市有馬133-1	
	阿賀防元備倉庫				1300								倉敷市阿賀2-15-35	
A	玉島乙島地点	700											倉敷市玉島乙島地先	
B	玉島乙島地点		1300	195									倉敷市玉島乙島地先	
C	船越町水江地点		7200	200									倉敷市船越町水江地先	
D	真備町有井地点		1300	490									倉敷市真備町有井地先	
a	真備田地点		100										倉敷市真備町真備田地先	
b	高梁川出張所		219	450									倉敷市西阿賀町西原793	
c	津波右岸防災倉庫										1180	436	100	倉敷市津波津地
d	飯沼ポンプ場					5	100m ² 6畳		300	15	3		社社市清音町飯沼	
e	社社市井尻野地点		110										社社市井尻野地先	
f	社社市栗地点		1000										社社市栗地先	
g	真備町水江地点		100										倉敷市真備町水江地先	
h	二万谷排水機場		1	200									倉敷市真備町二万谷	
i	真備町井ノ口地点		500	200									倉敷市真備町井ノ口地先	

■地域の建設業者による水防支援体制の検討・構築

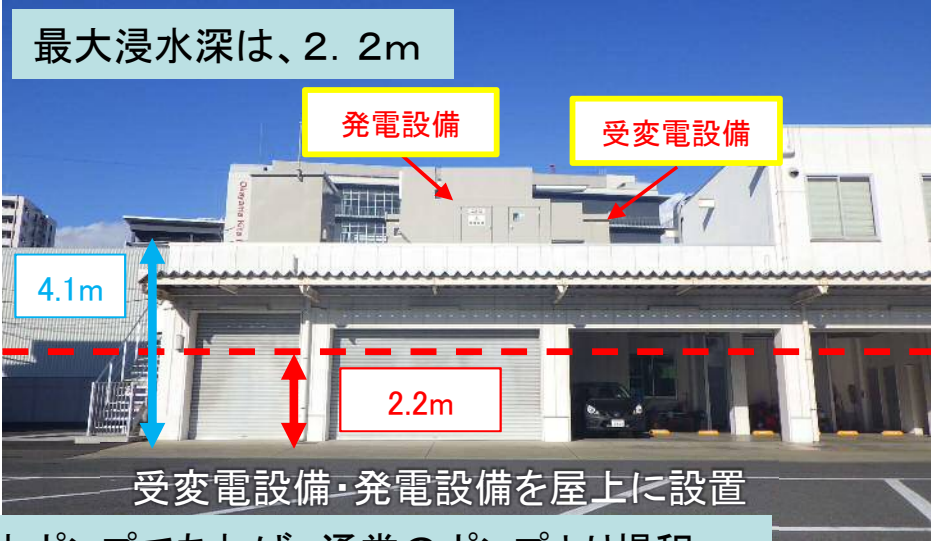
地域住民の生命と財産を守るため「災害時の応急対策に関する協定」を締結し、災害時の迅速な活動体制を確保する。

※協定の期間は、令和6年12月16日～令和8年12月15日

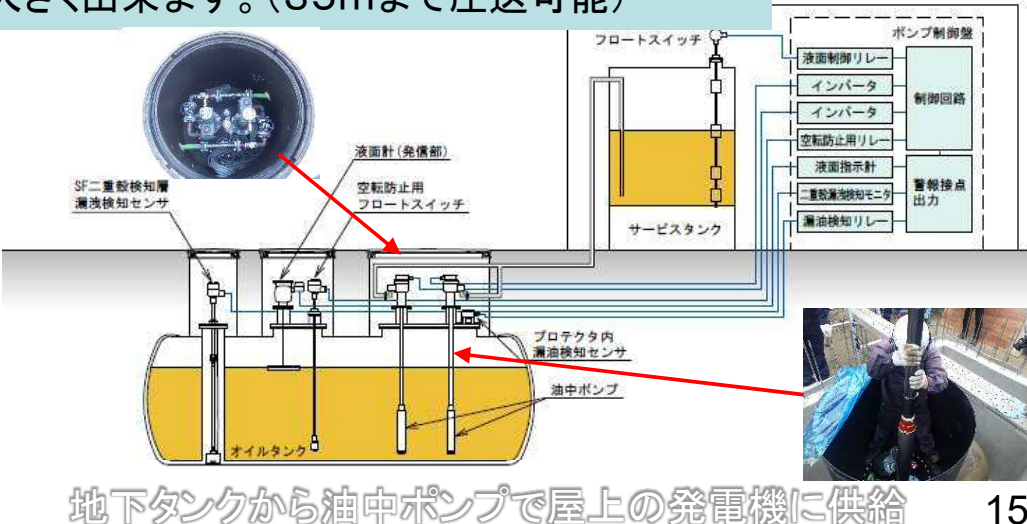
令和6年度 災害応急対策活動等(測量・設計)		令和6年度 災害応急対策活動等(写真撮影)		令和6年度 河川等災害応急対策活動等基本協定	
河 川 名	協 定 締 結 業 者 名 (五十音順)	河 川 名	協 定 締 結 業 者 名 (五十音順)	河 川 名	協 定 締 結 業 者 名 (五十音順)
吉 井 川 旭 川 高 梁 川	株式会社荒谷建設コンサルタント いであ株式会社 株式会社ウエスコ 株式会社エイト日本技術開発 応用地質株式会社 基礎地盤コンサルタンツ株式会社 株式会社山陽設計 株式会社シディック 西部技術コンサルタント株式会社 中電技術コンサルタント株式会社 株式会社なんば技研 日本インフラマネジメント株式会社 パシフィックコンサルタンツ株式会社 復建調査設計株式会社	吉 井 川 旭 川 高 梁 川	株式会社秋山測量設計 株式会社荒谷建設コンサルタント 株式会社ウエスコ 株式会社エイト日本技術開発 株式会社光栄技研 株式会社シディック 西部技術コンサルタント株式会社 株式会社なんば技研 株式会社パスコ	吉 井 川	栄光テクノ株式会社 大森建設工業株式会社 株式会社村上興業 株式会社元浜組
				旭 川	株式会社荒木組 株式会社大都建設 株式会社大本組 株式会社奥野組 株式会社笹山工業 有限会社佐山建設 株式会社三幸工務店 株式会社竹内組 蜂谷工業株式会社
				高 梁 川	株式会社大森工務店 株式会社小田組 株式会社カザケン 株式会社片山工務店 株式会社シンケン 中央建設株式会社 株式会社ナイカイアーキット 中村建設株式会社 株式会社ニシテクノ 株式会社藤原組 株式会社堀工務店
令和6年度 災害応急対策活動等(電気通信工事)		令和6年度 災害応急対策活動等 (排水ポンプ車・照明車の運送及び運転操作業務)			
河 川 名	協 定 締 結 業 者 名 (五十音順)	災害対策用機械	協 定 締 結 業 者 名 (五十音順)		
吉 井 川 旭 川 高 梁 川	山陽電子工業株式会社 タイセイ電工株式会社	排水ポンプ車 照明車 待機支援車	株式会社荒木組 栄光テクノ株式会社 株式会社奥野組 株式会社小田組 株式会社笹山工業 株式会社三幸工務店 株式会社シンケン 蜂谷工業株式会社 三宅建設株式会社 株式会社村上興業		

■受変電・予備発電設備の耐水化を実施

○河川の氾濫による浸水時においても、各種水文情報を収集伝送する設備を守り、防災業務を継続するため、令和2年12月に公表された浸水想定区域図(想定最大規模)の浸水深に基づき、岡山河川事務所、旭川出張所、西大寺出張所の受変電・予備発電設備を屋上に移設しました。



油中ポンプであれば、通常のポンプより揚程を大きく出来ます。(35mまで圧送可能)



■マイ・タイムライン講習会を開催

- 逃げ遅れゼロを目指して、岡山河川事務所では昨年度より引き続き「マイ・タイムライン」に関する講習を行い、マイ・タイムラインの作成や避難、河川の水位等の情報入手方法などについてお知らせしました。
- 今年度は、行政関係や防災に携わる方だけでなく、地域住民や福祉関係者等への講習を実施し、これまで以上に幅広い方々を対象に講習し、「マイ・タイムライン」の普及、水害の自分ごと化、避難意識の向上に繋がりました。

地域住民関係



地域住民関係



教育関係



防災機関関係



福祉関係



外国人関係



- ・令和6年4月～12月の間に7回の講習を実施し、延べ約400人が受講。
- ・同期間に配布した逃げキッドは約1,000部(講習以外にイベント配布や希望者への配布を含む)

■地域の建設業者による水防支援体制の検討・構築

【台風10号】

瀬戸内市からの排水ポンプ車の要請(牛文排水機場故障による)がありましたので排水ポンプ車を出動させました。雨が多く降らなかったため、ポンプは設置せず待機のみで帰還しました。

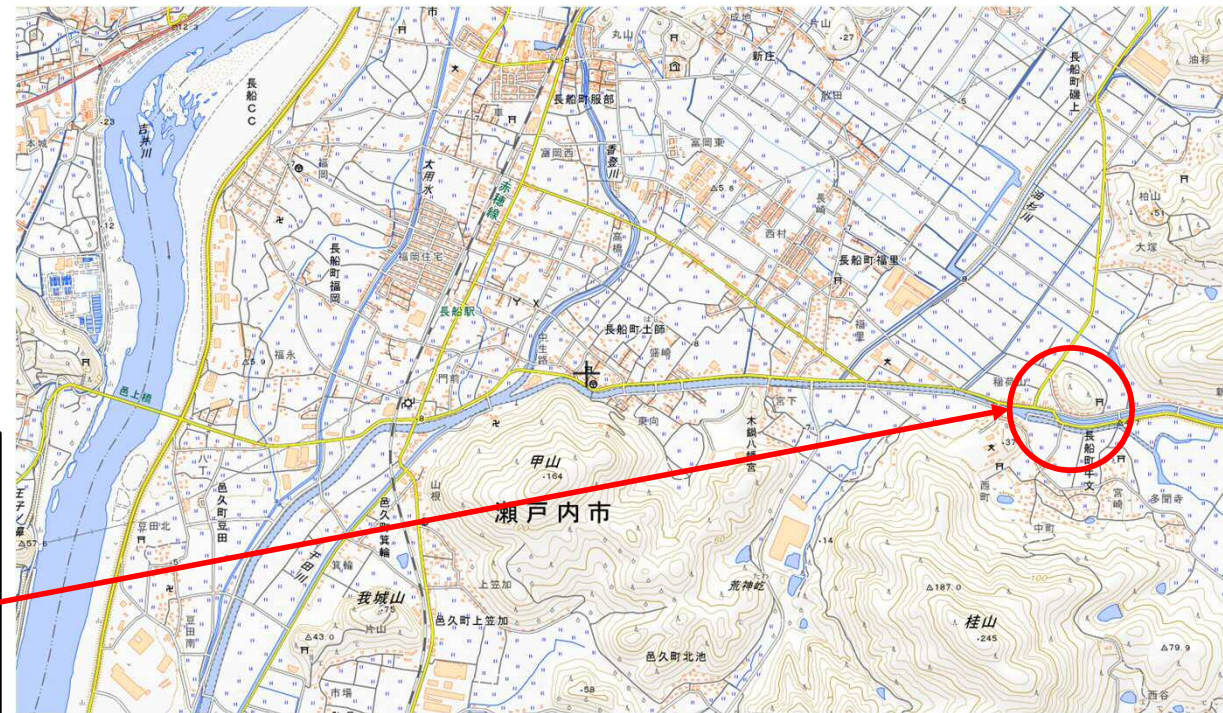
- 出動機械
排水ポンプ車(30m³/min)
- 派遣期間
8月30日(金)23:00～
8月31日(土)7:19



排水ポンプ車出動状況



牛文排水機場(瀬戸内市牛文地先)



出典:地理院地図/国土地理院HP

排水計画(案)の作成および排水訓練の実施

■排水機場・樋門・水門等の情報共有(連絡体制など)を行い、大規模水害を想定した排水計画を検討及び訓練の実施

「災害時の応急対策に関する協定」の締結協力事業者を対象に災害対策機械の操作訓練を実施し、操作の習熟度向上を図る。令和6年度は、高梁川、旭川、吉井川の3会場で操作訓練を行い、高梁川会場では倉敷市と、吉井川会場では和気町と合同で操作訓練を行った。(延べ参加者約160名)

災害対策機械訓練状況【吉井川水系6月3日、旭川水系6月5日、高梁川水系6月14日】



高梁川排水ポンプ車訓練(令和6年)



旭川排水ポンプ車訓練(令和6年)



吉井川排水ポンプ車訓練(令和6年)



高梁川照明車訓練(令和6年)



旭川照明車訓練(令和6年)



吉井川排水ポンプ車訓練(令和6年)

■「流域治水」を特定テーマとした高梁川水系減災対策協議会を開催

- 「**流域治水**」を**特定テーマ**とした**減災対策協議会**を開催。
- 平成30年7月豪雨から5年が経過し、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備えるため、高梁川流域の関係機関が集まり、高梁川流域の河川、流域、地域の特性を踏まえて、**流域治水の重点的に取り組むべき内容について意見交換**を実施。

<開催概要>

【日時】令和6年5月20日(月)
15:00~16:30

【会場】コンバックス岡山2階
国際会議場



【出席委員】
倉敷市長、総社市長、高梁市長、
新見市長、浅口市長、早島町長ほか



減災対策協議会開催の様子

<意見交換における主な発言>



伊東 倉敷市長

・平成30年7月豪雨災害後、**流域治水対策**には**特に注力**している。
・**農業用水路の事前排水**や**田んぼダム**の普及促進は**農業者の協力が必要**であるため、連携を深めて行きたい。



片岡 総社市長

・高梁川の河道掘削と内水排水ポンプ設置は**住民が安心感**を感じている。
・昨年度は**15の小学校で防災訓練**を実施している。引き続き、**訓練を通じた防災意識の啓発**に積極的に取り組む。



近藤 高梁市長

・**ARゴーグル**を活用した**災害の疑似体験**を通じて、**災害を忘れない学習**に繋げている。
・災害に対する**日頃からの備えが非常に重要**。流域治水等への取組を進める。



岡山河川事務所
垣原 事務所長

・**流域治水をより一層推進するためには、河川、流域、地域の特性を踏まえて取組を進める**ことが重要である。
・委員の皆様には流域治水の取組みを**先導する役割を担っていただきたい**。



戎 新見市長

・毎年実施しているアンケート調査から、**防災意識の低下を懸念**している。
・今後とも、**防災訓練や防災意識の啓発**に関する取り組みを推進することで、**防災意識の向上**に努めることとしたい。



栗山 浅口市長

・浅口市の特徴として、**農業用ため池が多い**ことから、**ため池の適切な維持管理**に努めている。
・被害軽減のために、**迅速かつ適切な情報提供**に取り組んでいる。



佐藤 早島町長

・**防災デイキャンプ**を通じて、**子供たちが楽しみながら防災意識を高める取組**を推進している。
・**子供たちが家庭で防災の話**をすることで、**防災意識向上効果**を期待している。



会議資料(流域治水対策)

流域治水現場見学会の開催

令和6年度 流域治水現場見学会を開催

- 流域治水の更なる推進を図るため、自治体等の担当者レベルで理解が深まるよう、令和6年9月30日(月)に赤磐市内と岡山市内、令和6年10月3日(木)に倉敷市内で現場見学会を開催。
- 現場見学会では、赤磐市の「ため池の洪水吐と排水樋門の調整方法」、岡山市の「岡山芸術創造劇場ハレノワの地下貯留施設」、倉敷市の「住民参加型の樹林化抑制対策」といった流域治水の先導的な取り組み事例について、関係者から現地で説明を受けた。

9月30日の現場見学(赤磐市、岡山市)10機関24名が参加

(岡山市、玉野市、総社市、高梁市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、浅口市、福山市、環境省中国四国地方環境事務所)



田んぼダムの堰板(赤磐市)



洪水吐と排水樋門(岩田大池)



雨水貯留施設
(岡山芸術創造劇場ハレノワ)



雨水貯留施設
(北長瀬未来ふれあい総合公園)

10月3日の現場見学(倉敷市)9機関18名が参加

(岡山市、倉敷市、総社市、真庭市、浅口市、早島町、福山市、環境省中国四国地方環境事務所、岡山地方気象台)



止水壁設置イメージ



止水壁の保管庫(倉敷中央病院)



遊水池



遊水池及び排水施設(柳井原)



マレットゴルフ場
(樹林化抑制対策)



樹林化抑制対策(小田川河川敷)



まびふれあい公園(全景)



まなびの部屋(まびふれあい公園)

岡山県の取組状況

河川の流水を阻害する堆積土や繁茂樹木の除去

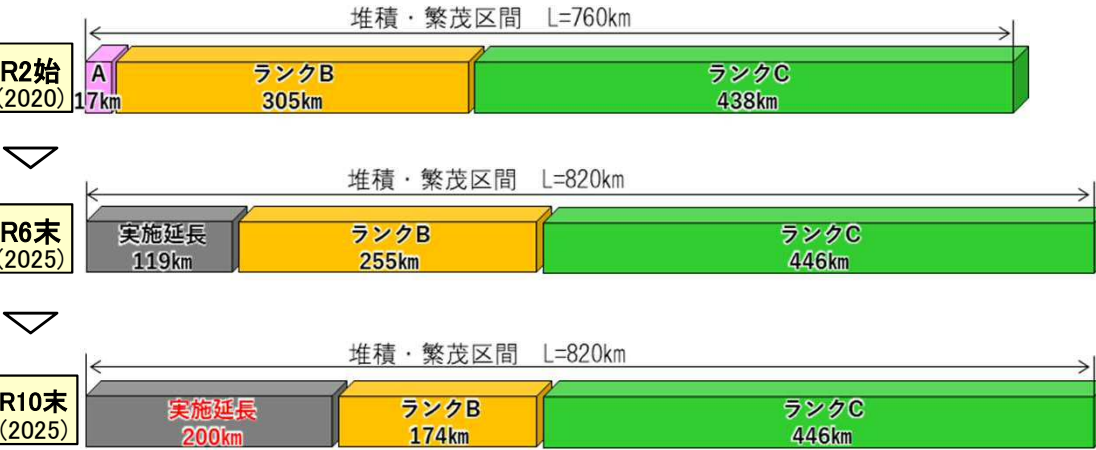
河道掘削・樹木伐採の推進

現状・課題

- 河道内に堆積した土砂や繁茂した樹木により、川の流れが阻害されている箇所について、「河道内整備実施計画」に基づき、優先度の高い箇所から、効果的に河道内整備（河道掘削・樹木伐採）を行い、浸水リスクを低減。
- 令和6年度末までに、約119kmの河道掘削や樹木伐採を実施したが、対策が必要な箇所は依然として数多くあり、また、これまでに実施した箇所の一部では、土砂の再堆積や樹木の再繁茂も見受けられる。



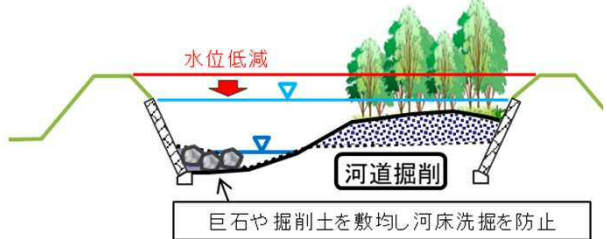
要対策箇所の状況



河道内整備

河川機能の保持とコスト縮減を両立

樹木伐採



土砂の再堆積状況



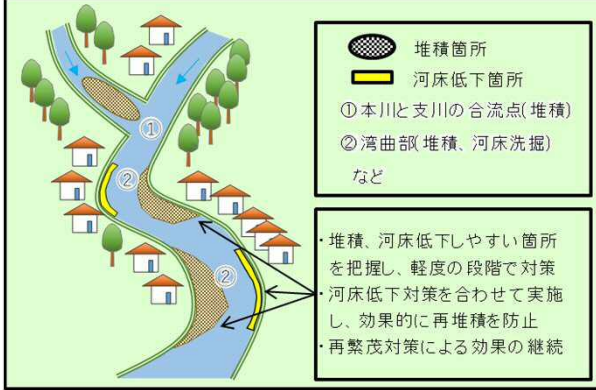
再繁茂対策の状況



河床低下対策の状況



再堆積・再繁茂・河床低下対策



期待される効果

- 河道掘削・樹木伐採により洪水時の水位を下げ、浸水リスクを低減
- これまでの取組の成果を維持し、持続可能な河川管理を実施

スケジュール・事業費

令和7年度から令和10年度末までに約81kmの河道内整備を行うこととして、累計延長200kmを整備目標とするとともに、再堆積等の対策も実施する。

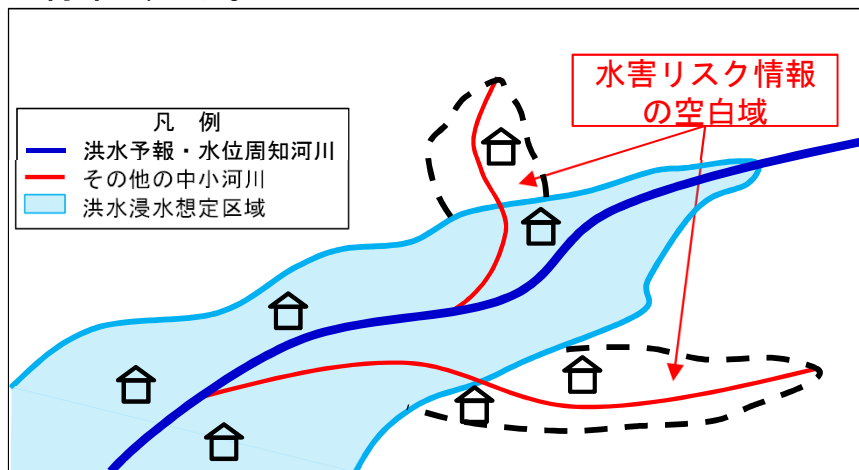
実施内容	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	合計
河道内整備	10億円	10億円	8億円	8億円	36億円
再堆積・再繁茂・河床低下対策	3億円	3億円	3億円	3億円	12億円
R7～R10 合計					48億円

■ 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の作成・公表（岡山県管理区間）

洪水予報河川等については、洪水浸水想定区域図を作成し水害リスク情報を公表している。その他の中小河川についても、浸水被害の全国的な発生を踏まえ、令和3年度に水防法が改正されたことから、区域図を作成し洪水による水害リスク情報の空白域を解消する。

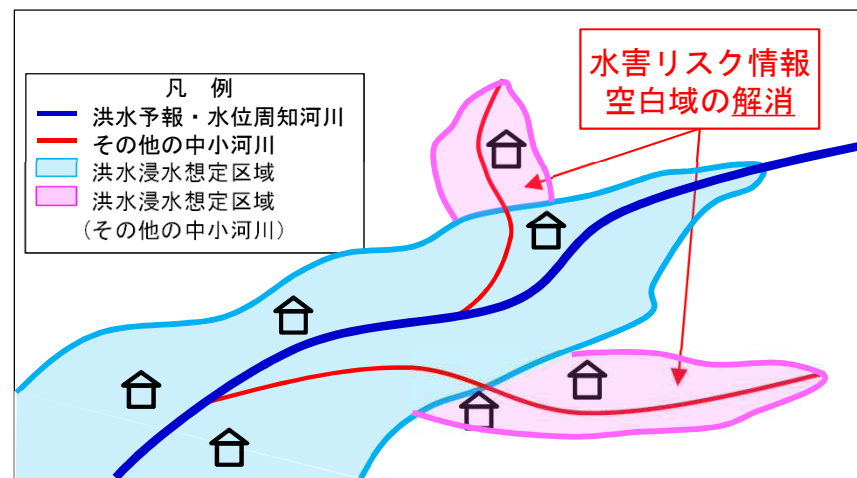
◆ 現状・課題

中小河川では、一部を除き、洪水浸水想定区域図を公表しておらず、水害リスク情報の空白域が存在する。



◆ 取組内容

中小河川の氾濫により浸水が想定される範囲について、洪水浸水想定区域図を作成。



◆ 効果

洪水浸水想定区域図を、水害リスク情報として公表することにより、住民等の、水害を「我がこと」として捉える意識の醸成が進み、洪水時における円滑かつ迅速な避難行動が促進される。

◆ R6実施内容

吉井川水系の中小河川において、想定最大規模(L2)及び計画規模(L1)の洪水浸水想定区域図を作成。

■災害を風化させないために河川に関するイベントや防災訓練等を実施して、住民が河川や堤防に関心を持つ取組を積極的に行う

防災教育教材の作成及び出前講座の開催

子供の頃からの地域に根ざした防災教育を推進するため、学校や家庭などで活用できる防災教育教材「おかやま備災手帳」を作成し、小中高生等を対象に「備災出前講座」を開催した。

《備災出前講座》備前県民局建設部（東備地域）
備中県民局地域政策部

- ・ 自然災害やハザードマップの学習
- ・ 防災まちあるき
- ・ オリジナルハザードマップ作成 等



自然災害や避難の方法を学習



防災まちあるき
(注意すべき場所などを発見)



オリジナルハザードマップ作成



「おかやま備災手帳」

■実働水防訓練の実施

- 令和6年10月26日、今在家河川防災ステーション(岡山市中区)にて、「岡山県水防技術講習会」を開催し、消防団員や県及び市の職員計21名により、水防工法の演習等を行いました。



講義（水防工法等）



改良積み土のう工法



土のう作成



ロープワーク



月の輪工法



講義（水防団と自主防災組織の役割）

防災知識の普及啓発

■防災の日・防災週間にあわせた防災の普及啓発

【目的】

いつ起こるかわからない地震や風水害に対して、県民自らが災害に備えることの重要性を呼びかけ、県民の防災意識の高揚を図る。

【内容】

- ・毎年、防災の日(9月1日)及び防災週間(8月30日～9月5日)にあわせて、ホームセンターや100円均一ショップに防災コーナーの設置協力を依頼
- ・ラジオや岡山県危機管理課の公式Xアカウント「岡山県防災」を用いた、防災週間と災害への備えに関する普及啓発を実施
- ・県庁舎に防災週間の懸垂幕を掲示

【効果】

- ・防災ガイド・チラシの配布による県民の防災意識向上

懸垂幕



防災コーナー



■出前講座の実施

【目的】

県民に対して、過去の災害や災害に対する備えの紹介を行うことで、防災意識の高揚や自助の取り組みの促進を図る。

【内容】

- ・岡山県の発行する防災ガイドブック「ももたろうの防災」等を活用した、平時の備え等に関する講演
- ・VRゴーグルを用いた災害体験

【効果】

- ・令和6年度(1月10日時点)では、出前講座を9回行い、総参加者数は約500名
- ・防災ガイドブック「ももたろうの防災」やYahoo!防災速報アプリのチラシの配布による県民の防災意識の向上
- ・過去の災害の紹介や、具体的な備えの方法を紹介することにより、家庭での自助を促進

講演



VRゴーグルを用いた災害体験



市町村等の取組状況

■避難行動要支援者に個別訪問を実施

- 高齢者や障がい者などのうち、災害時に自力または家族の力だけで避難することが困難な避難行動要支援者の方について、個別避難計画の作成支援を推進する。

■避難行動要支援者への戸別訪問による計画作成支援

令和6年8月8日に南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表されたことを受け、8月14日及び15日、津波浸水想定区域に居住する避難行動要支援者名簿に登録されている方を対象とする戸別訪問を実施した。

災害への備えについての普及啓発と個別避難計画の作成支援を行い、**8月22日以降は対象を市内全域に広げ**、令和7年3月末までに、1,829名の個別避難計画の作成を支援している。

・津波想定区域内:市職員106名/日(2名1組53班)体制で訪問

・市内全域:市職員100名/日(2名1組50班)体制で訪問

■市職員の防災意識の醸成

個別避難計画の作成支援を市全体で取り組むことで、災害に対する基礎知識の向上や、防災意識を醸成し、防災部門、福祉部門といった縦割りの災害対応の考えの払拭を図った。



市職員が避難行動要支援者宅を訪問し、本人やケアマネジャーの了解を得ながら、計画作成を支援



市長自らが、職員に個別避難計画の作成支援について説明

■今後の目標

市職員が聞き取りながら一緒に作成した計画を基に、避難サポーターを充実させることや、避難方法・場所について、地域の自主防災組織や福祉専門職等の協力を得ながら、より避難の実効性のある計画にしていく。

また、本取組を職員の人材育成の取組の一環として、市職員全体の防災に関する基礎知識の習得や対人折衝能力の向上を目指す。

より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化

■関係機関の連携を踏まえた(R3年度～)実働水防訓練の実施

- 梅雨前線を始めとした台風による洪水及び高潮等の災害に備え、気象情報、ハザードマップ等の防災知識を習得し、市民と防災関係機関が一体になって災害時に必要な行動について討議して、適切な避難行動がとれるよう訓練している。
- 土のう作成等の実践的な訓練を実施し、水害時における被害の軽減及び防災意識の向上を図っている。

■開催日時:令和6年5月19日(日) 09:00～12:00

■開催場所:笠岡市立大島中学校体育館及びグラウンド

■主 催:笠岡市

■参 加 者:119名

(自主防災組織、市内在住防災士、消防団、消防及び警察職員等)

■講 評:岡山県危機管理課



▲大雨・台風等気象情報・警報等に関する説明



▲市民、防災関係機関によるマイタイムライン作成・討議



▲住家浸水防止に資する土のう作成・積工法

排水計画(案)の作成および排水訓練の実施

■排水機場・樋門・水門等の情報共有(連絡体制など)を行い、大規模水害を想定した排水計画を検討及び訓練の実施

■取組の内容

- 開催日時: 令和6年5月24日 13:30～15:00
- 実施機関: 井原市建設課
- 参加機関: 井原市建設業協会、井原市消防組合、井原市農林課・都市施設課
- 開催場所: 小田川河川公園(井原市木之子町地内)
- 概要:
 - ・井原市と井原市建設業協会が締結している「災害時における応急対策業務の実施に関する協定書」に基づき、災害時に井原市と連携して行う内水排除作業に使用する可搬式の軽量緊急排水ポンプユニットの操作訓練を実施
 - ・ポンプユニットの設置、発電機の起動、放水方法を説明後、実際に操作を行っていただくことで、万が一の事態における作業の流れを確認



■小学生を対象とした防災教育の実施

■取組の内容

- 開催日時: 令和6年8月6日、7日 10:30～11:30
- 実施機関: 井原市危機管理課
- 参加機関: 井原市立出部小学校児童約80名
- 開催場所: 井原市立出部小学校
- 概要:
 - ・出部小学校放課後児童クラブの防災授業の一環として、過去に市内で発生した災害、井原市危機管理課業務の紹介、防災マップの説明及び災害への備え等について講座を実施。
 - ・合わせて、災害備蓄物資の普及啓発、備蓄促進及びフードロス削減を目的として、賞味期限が近いアレルギー対応アルファ米を児童に配布。



▲講座の様子



▲使用したスライド(抜粋)



▲使用したスライド(抜粋)

災害対策活動拠点としての機能を強化した市役所新庁舎の建設

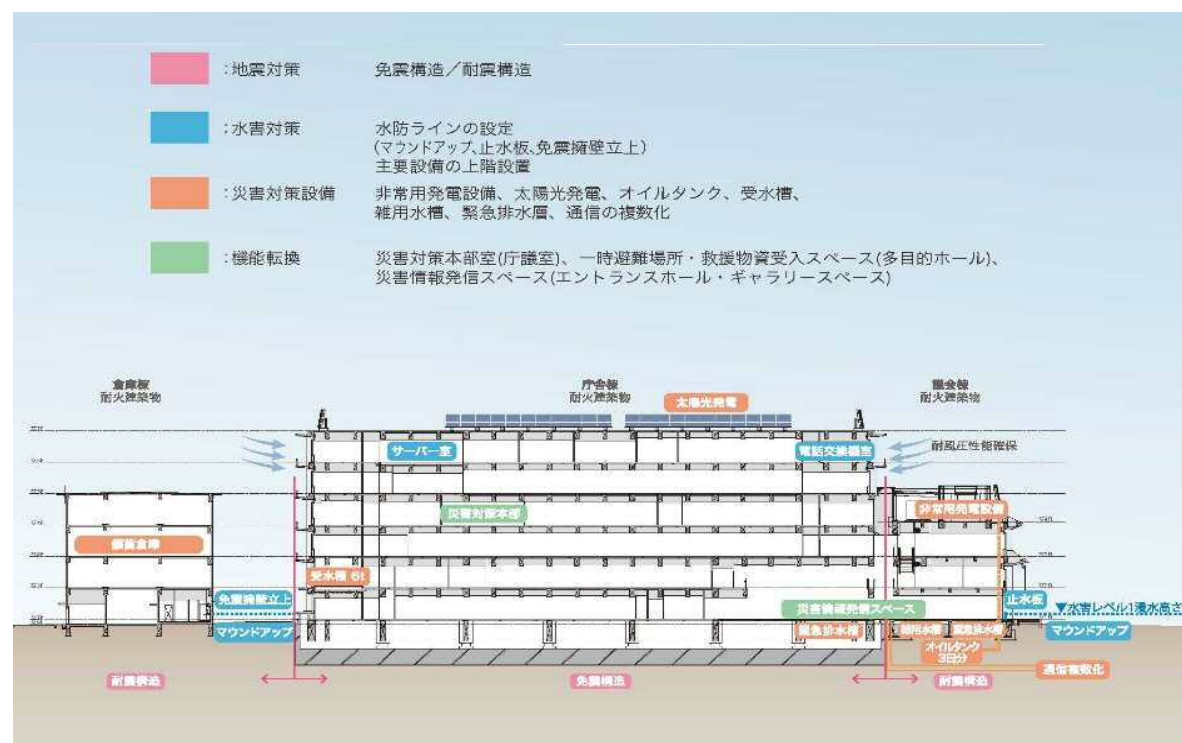
- 水害や地震など災害発生時に必要不可欠な災害対応機能を整備する。

【事業概要】

- ◆ 災害時の対策活動拠点となる防災庁舎として、浸水対策にはマウンドアップ並びに開口部に止水板を設けるとともに、地震対策には免震構造を採用する。
- ◆ 災害発生時の対応を迅速に行えるよう、上層階に災害対策本部を設け、同階に指示系統を集約する。
- ◆ 1階多目的ホールを一時避難所として利用可能とする。
- ◆ マンホールトイレや市民広場にかまどベンチを設けるなど、災害時の機能転換を可能とする。
- ◆ 市役所敷地内倉庫棟に備蓄品スペースを設け、迅速な供給を行う。



北西側鳥瞰イメージ



防災対策断面イメージ

- 高梁川の増水や局地的な降雨による内水氾濫・道路の冠水等を早期に把握し、迅速な避難情報の発令等を行うべく、災害リスクが比較的高い箇所に河川監視ライブカメラ(動画)を整備中。



- R4年度整備(高梁川沿い6か所)
R5年度整備(主に高梁川支川5か所)
R6年度整備(高梁川沿い1か所、笹ヶ瀬川支流に1か所整備予定)
- ・ リモートで360度可動式、赤外線で夜間でも監視可
 - ・ 道路や河川の状況をリアルタイムに把握
 - ・ 将来的には市民への公開も検討



ライブカメラからの映像

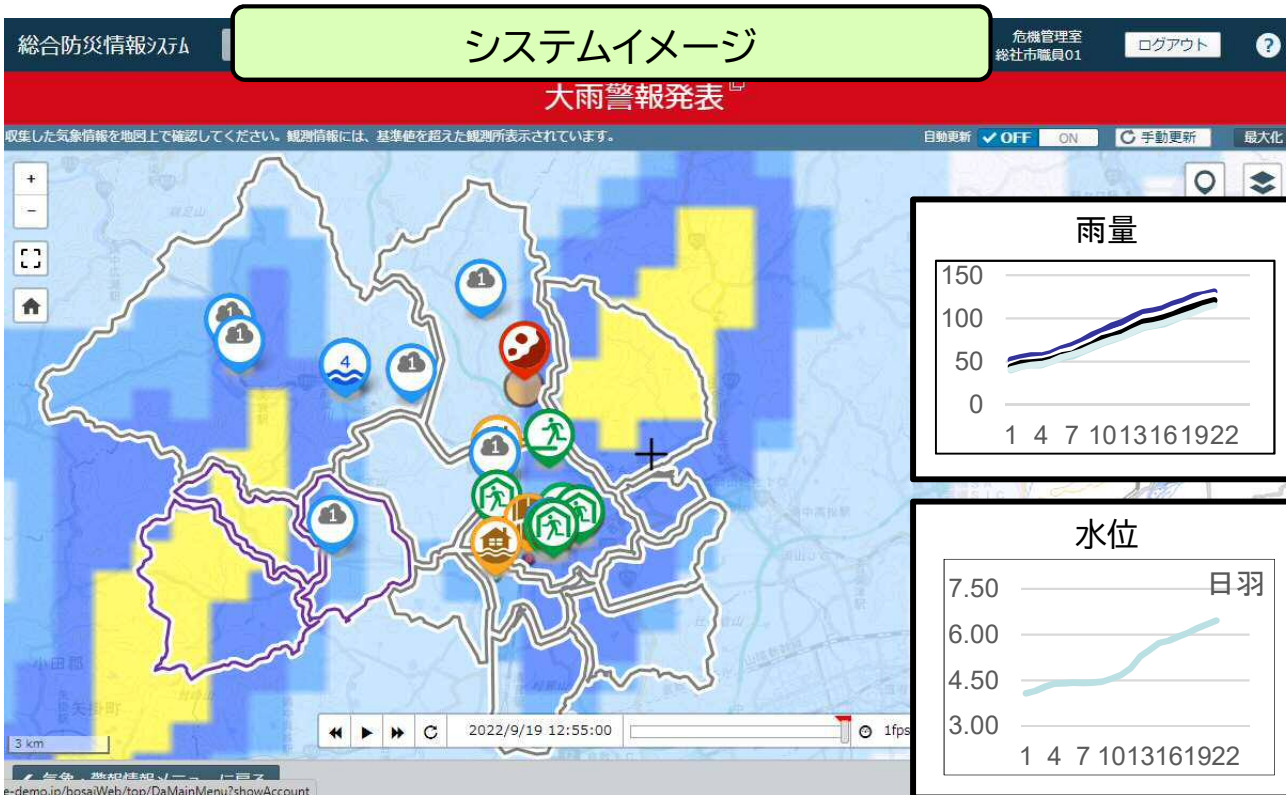


災害対策本部で活用

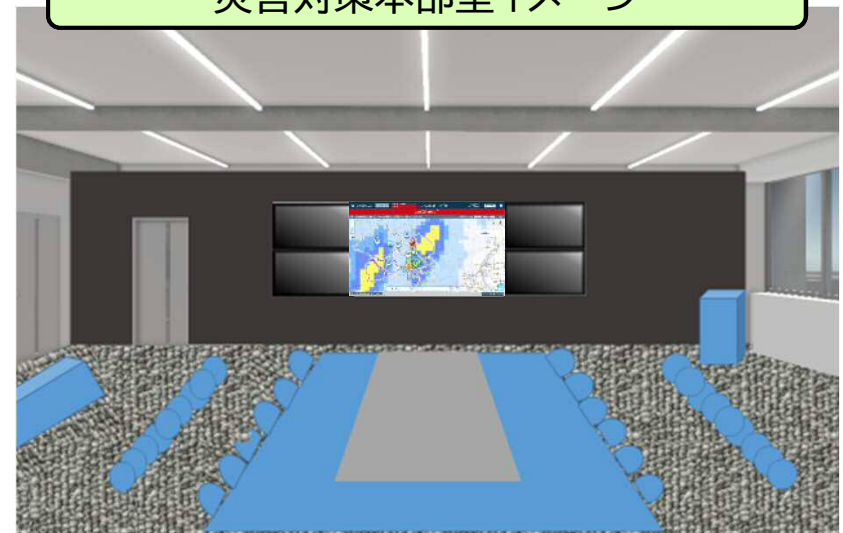
- 水害など災害発生時に迅速な判断や情報共有ができるシステムを整備する。

【事業概要】

- ◆ 災害時必要な情報を自動で取得。
- ◆ リアルタイムの情報を共有し、災害対策本部での迅速な判断につなげる。
- ◆ 被災現地と災害対策本部が円滑に情報共有可能。
- ◆ 避難所の避難者数等を現地職員がシステム入力して管理。
- ◆ 市民は、雨量や水位、避難所の開設状況等をひとつのウェブサイト上で確認できる。



災害対策本部室イメージ



軽部川の流域治水 ～清音軽部地区の水害対策の取り組み～

- 西日本豪雨災害以降、国・県・市が一丸となって、軽部川の内水氾濫被害の軽減に向けた取り組みの実践・効果的な対策の検討を行っている。これらの取り組みを水害対策状況報告会などで、地元住民等の流域の関係者で情報共有を行っている。



軽部排水機場の運転水位の見直し



湛井堰ゲートの事前操作



古地取水転倒堰の事前操作



軽部川の河道掘削



清音軽部地区の水害対策状況
報告会の様子

- 市内全小学校区(15小学校区)で防災訓練を開催(計16回)

【事業概要】

- ◆避難所の開設、救命救急等体験型の訓練を実施し、地域の防災力の向上を図る。
- ◆災害時に必要な知識・技能を習得するため、参加者は全ての訓練の体験を行う。
- ◆継続して訓練を実施することで、発災時の対応能力の向上、防災意識の醸成を行う。
- ◆協定先団体や市内の大学・高校と協力して訓練を実施することで、災害に向けた協力体制の強化を図る。
- ◆令和5年度は2,000人以上が参加し、参加者全員に修了証を発行。
- ◆令和6年度も3月末までに15小学校区全てで訓練実施予定(1月末現在15小学校区で実施済み)。



■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催



市内の小学校・中学校で防災学習を実施し、防災マップを使って「マイ・タイムライン」を作成しています。

令和4年度からは、ARゴーグルによる浸水疑似体験の導入により、浸水が始まってからの避難は濁った水で足元が見えず、とても危険であることを体験してもらいました。障害物を置く体験では足元が見えない状況では歩行が非常に危険であることも学習しました。



また、子供たちが協力してワンタッチパーテーションと簡易ベッドを組み立て、ベッドに横になってみたりして避難所体験も行っています。

タブレットを使っでの防災学習では、災害情報の取得方法や、自分の居住区域の災害リスクの確認方法などを学んでいます。



ARゴーグルで浸水疑似体験



避難所体験



マイ・タイムラインの作成



タブレットで防災マップを確認

令和5年度から地震・火災を疑似体験できるVRゴーグルを導入し、各所の訓練等で使用し好評を得ています。
令和6年度には2校(高梁北中9/2(19名)、川上中9/24(38名)がAR・VRゴーグルでの防災学習を実施しました。学校以外では自主防災組織などの訓練時に使用し、17回、700名が体験しています。

■新見市公式スマホアプリを使った防災情報の配信

- 新見市では、平成30年から利用していた新見市公式ポータル「新見まちナビ」に告知放送のお知らせ内容の掲載や新見市電子申請サービスなどの機能を追加し、令和5年4月から新見市公式スマホアプリとして運用しております。「新見まちナビ」では警報等発令時の情報やハザードマップ、避難所の情報等も確認できます。
- 令和6年10月からは、ダムからの放流情報を配信する機能を加えました。これは「おかやま防災情報メール」の情報を転送する仕組みとなっていることから、手動で入力していた作業が省け、ダムからの配信を遅滞なく市民に伝えることが実現しました。

「新見まちナビ」が新しくなりました! 4/1から

平成30年からご利用いただいていた新見市公式ポータル「新見まちナビ」が、告知放送のお知らせ内容の掲載や新見市電子申請サービスなどの新機能を追加し、新見市公式スマホアプリとして生まれ変わりました!
より便利に、使いやすくなっていますので、皆様ぜひご利用ください。

無料

告知放送などのお知らせが確認できます!
告知放送でお知らせしている情報が、文字と音声で確認できます。
また、「市報にいま」・「こみ収集カレンダー」などもアプリ内で閲覧できます。

防災情報が確認できます!
警報等発令時の情報やハザードマップ、避難所の情報が確認できます。
現在地から最寄りの避難所までのルート検索機能もあります。

公民館などの利用申請がスマホでできます!
新見市電子申請サービスを利用して、公民館など各種施設の利用許可申請、水道の開始・休止手続きなど、60種類の手続きがスマホやタブレットからでも可能になります。

15:03 戻る すべてのお知らせ 絞り込み

気象警報・注意報 (test) New
2024年1月9日 (火) 15:00

気象警報・注意報情報をお知らせします。

■発表日時: 2023年10月26日11時13分
■発表官署: ○○地方気象台
■各地域の情報:
[新見市]
発表
・暴風警報
継続
・洪水警報
状況変化あり
・大雨警報 (浸水害) → 大雨警報 (土砂災害、浸水害)

新見市からの配信

【告知放送 (哲多支局)】人権・行政・登記・法律相談について
2024年1月8日 (日) 20:00

ホーム メニュー

避難所情報

17:04 完了 niimi-api.lifevision.net ああ

100m Leaflet | Map data © OpenStreetMap contributors, CC-BY-SA

気象警報等

ダム放流情報の配信
令和6年10月から運用開始

15:03 戻る すべてのお知らせ 絞り込み

おかやま防災情報メール New
2024年1月9日 (火) 15:00

岡山県からの観測に関する情報
2024年01月09日15:00

【新見市】
■千屋ダム-放流開始 15.990 m³/s
(流入量 51.230m³/s)

ダム下流の河川水位の上昇に注意してください。

新見市内には五つのダムがあり、ダムの放流は、河川の増水に直接繋がることから、特に流域に暮らす市民の関心は高く、注意喚起に役立つことを期待している。

■ 自主防災組織のリーダーを育成する講座を開催

- 地域防災の要である自主防災組織や消防団を対象とし、地域の防災力向上及び防災学習を目的とした育成講座を開催。



防災気象情報に関する講演
(岡山地方気象台)



災害VR体験
(岡山県危機管理課
おかやまコープ)



高圧電源車・停電アプリの紹介
(中国電力ネットワーク(株))



移動基地局車の紹介・展示
((株) ドコモCS中国)



電気自動車の紹介・展示
(三菱自動車工業(株))

(令和6年度)

- ・出水期前の6月初旬に開催
- ・自主防災組織・消防団から44名参加
- ・防災関連機関、協定締結企業等によるブースを設置し、各種体験コーナーや車両の紹介・展示
- ・班に分かれ、自組織の課題や困りごとなどを意見交換

■省電力広域通信網(LPWA)を活用したため池等の水位の監視

- 市内の主要なため池及び河川へセンサを設置し、水位をパソコンやスマートフォン等で常時確認できるように整備。

- ・大雨時の見回りによる転落の危険を回避できる
- ・早期避難の判断が容易なる
- ・防災意識の向上が図れる
- ・低水管理や事前の放流について、農業関係者との調整が図れる



**スマホで確認！！
ため池・河川の
水位情報**

台風や大雨の際は、正確な情報を収集するため、早期の避難が大切です。浅口市では市内の指定のため池や河川における水位、道路の冠水状況を監視しています。

スマートフォンやパソコンで確認することができます。早期避難の参考にしてください。

確認いただける箇所

- ・ため池：決壊した際に人に被害が及ぶ可能性があるものの内、ため池の排水能力が他のため池と比べて低いもの等。2箇所
- ・河川：増水により冠水の可能性のある箇所。7箇所
- ・道路：河川の増水により通行ができなくなる可能性がある箇所。2箇所

ため池 河川 道路

【周知チラシ】

浅口市ライフビジョンや
ホームページからも
アクセスできます。

スマートフォンで確認する
パソコンで確認する

浅口市ライフビジョンから
浅口市ホームページから

スマートフォンでのインストール
QRコードをスキャンしてインストール

お問い合わせ先
浅口市産業建設部建設課
☎0865-44-9036

【防災アプリ等で確認】

■アレルギー対応非常食料の確保、モバイルバッテリーの導入

- (1) 避難所運営時に使用するために、アレルギー対応非常用食料の充実。
- (2) 避難所運営時に活用するために、モバイルバッテリー及び充電用ソーラーパネルの確保。

(1) 非常用食料の備蓄について、避難者の使用範囲を拡大させるため、アレルギー対応食品(アレルギー物質28品目不使用)を採用。令和6年度は1,350食購入。町が保有しているアルファ米7,000食のうち37%アレルギー対応食品として確保。

今後も拡大させていく。

(2) 避難所運営時の電力確保のため、令和6年度はモバイルバッテリー及び充電用ソーラーパネルを1セット導入。持ち運びが便利なキャスター付を採用。継続使用を実現させるためのソーラーパネルも導入。



■水防災に関する説明会，出前講座を活用した講習会の開催

- 平成30年7月には豪雨災害があり，令和6年1月1日に発生した能登半島地震は記憶に新しい。南海トラフ地震の発生も心配されている。万一の災害に備えて，平常時から防災意識を醸成することは大切である。矢掛町は合併70周年の節目でもあり，総合防災フェアを開催。

- 開催日時：令和6年9月8日(日) 12:30～16:00
- 開催場所：やかげ文化センター
- 主催：矢掛町
- 参加者：約120名
- 内容：①講演「洪水・土砂災害は 起こりうるものが，起こりうるところで」
・講師 静岡大学防災総合センター牛山素行教授
②展示・体験(ポンチョ作り，災害用伝言ダイヤル，気象実験，浸水ARなど)



■ダム再生の推進（操作規則の再検討、治水機能の増強の検討、利水ダムの治水活用）

◆ 2024年度の出水期を向かえるにあたり、以下について今年度も継続して取組み、新成羽川ダムの事前放流等を確実に実施した。

教育・訓練

- ・事前放流のルールの徹底
- ・ダム操作基本原則の理解と徹底(ダム放流に関する危害防止・ダム操作规程の遵守)
- ・機器故障時における対応および連絡体制の構築
- 《国交省主催》・洪水対応演習(ダム管理演習)(5/10)
- 《ダム管理教育》・通知・通報・巡回警告訓練
- ・事前放流に関する研修
 - ・ダム管理基礎研修
 - ・ダム管理応用研修
 - ・ダム操作者研修
 - ・連ダム操作者研修
 - ・管理主任技術者研修

ダム操作関係設備の点検

- ・ダム操作に関する機器の点検・整備の実施(メーカー点検含む)

異常出水への対応

- ・通信手段の途絶、道路の不通等を考慮した緊急措置の確認

理解促進活動等

- ・関係機関・関係者に対する周知・徹底
(ダム下流域に対する理解促進活動の実施)
- ・当社HPでのリアルタイムのダム画像公開(2021年6月～)
- ・川の防災情報への諸量データ公開(2021年6月～)
- ・中国電力ダム・水力発電所の写真展を開催(流域治水の取組を説明したパネル展示およびパンフレットを配布：2024年3月：高梁市、2024年5月：帝釈峡ほか)

通知通報装置研修



事前放流に関する研修



【各種教育・訓練の実施】



【ダム操作関係設備点検】



【写真展の開催】

■水防災に関する会議や研修での講師、出前講座を利用した講習会の開催

- 自治体や防災関係者、教育機関などを対象に、防災について周知解説を行った。
 - 市役所職員：注警報など気象情報発表時の対応シミュレーション演習や研修会での講演。
 - 防災士や自主防災組織：養成講座や勉強会での講演。
 - 教職員：実践的安全教育総合支援事業推進委員として、災害と防災に関する知識の普及啓発。

令和6年度の実績(2024年12月末時点)

自治体職員:防災会議4/17, 5/7,9,10, 6/4 ; 研修5/15,17,21, 7/25,31, 11/19,27 ; 訓練5/30, 8/18, 10/4, 11/16
民間防災関係者:5/23,28, 6/5,7, 7/5, 8/21, 9/19, 10/1,19,26
教育機関:5/29, 6/21, 7/26, 8/23, 9/18,19
報道機関:5/17
一般市民:公民館5/27,30, 6/27, 12/12; 防災フェア9/8,29, 10/20, 11/10,15,23,30



【備前市役所】ワークショップ
10/4 市役所職員 25名
防災対応シミュレーション演習



【新見公立大学】防災士養成講座
9/19 防災士を目指す学生 170名
防災士養成科目の講師



【倉敷市まびふれあい公園】くらしき防災フェア
11/10 一般市民 約15000人
水害の種類や発生機構の周知